第１分科会

継続テーマⅠ

産業カウンセラーの実践力を高めるには

神奈川支部　支部長
コーディネーター　粟竹　愼太郎

全国研究大会第1分科会のテーマ「産業カウンセラーの実践力を高めるには」は、2015年沖縄大会、2016年北関東大会を経て中部大会へと続く継続テーマとなっています。過去2回の討議を踏まえた総括の場であるとともに、参加者一人ひとりが思いを述べ共有し振り返る、全員参加型の分科会にしたいと考えています。

第1部では、産業カウンセラーにとって実践力とは何か、またそれを高めるポイント等について深掘りを進めたいと考えています。実践力の中でも特に重要なカウンセリング力を高める一つの方法として、スーパービジョンがあります。今回は公開スーパービジョンとともにその解説と質疑を行う予定です。

第2部は、参加者である産業カウンセラー一人ひとりにとっての実践力を考える場としたいと思います。そのために参加者のみなさんに数人のグループに分かれていただき、参加者であると同時に発表者として、グループディスカッションを進めていただきます。テーマは「産業カウンセラーの実践力とは」「どのようにして実践力を向上するか」「個人ですべきこと、支部や本部ですべきこと」などなどで、その結果についてグループ発表を行っていただき、第1分科会に参加いただいたみなさんのご意見の総括としたいと考えています。

私たちは日々、仕事や生活の様々な場で多くの方々や課題と対峙しています。「なぜ上手く行かなかったのだろう」「どうしたらいいのか分からない」「どこから手を付けたら良いのか」「そもそも、私の役割なの？」等と悩み・疑問を抱き・成功や失敗をしながらも、一歩ずつ前に進んでいます。その日々の思いや疑問、成功できた例などをお互いに共有し、参加者のみなさんが自己の実践の場での活用や新たな展開を行うためのヒントと、一歩踏み出す勇気を持ち帰れるようにしたいと考えています。

ぜひ多くの方に参加いただき、有意義な分科会としたいと思っていますので、ご期待ください。

ナビゲーター　協会スーパーバイザー
中部支部　養成講座部　静岡地区チーフ
小牧　榮里子

第２分科会

継続テーマⅡ

産業社会の期待に応えるには

東京支部　特定社会保険労務士
コーディネーター　竹 下　克 司

産業社会のニーズをどう捉え、社会の期待に応えられる産業カウンセラーとしてどうあるべきか、実践事例を基に、継続テーマの集大成として取り組みます。“産業”の名を擁する私たちが、人材の確保と定着、モチベーションと高パフォーマンスの維持、そしてそれらによる組織の活性化に関わり、産業カウンセラーの社会的評価を確立するためには今後どう研鑽し、変わらなければならないかを考える契機としたいと考えています。

① ２年間の実践事例報告のフォロー
② ワークライフバランス・キャリアコンサルタント国家資格化・ストレスチェック制度・派遣労働者へのキャリアアップ措置等の改正および、それに付随する協会活動の変化要素
③ 職業及び生活様式の多様化に対応できる産業カウンセラーのあり方

等について、事例報告、パネルディスカッションならびに公開討論会などを組み合わせて実施いたします。会場からの意見も取り入れ、参加者全員の白熱した議論を通して、より深くアクティブな分科会にしたいと思っています。

なお、事例報告に入る前に、「産業社会の期待に応えるには～産業カウンセラーのニーズと活動」をテーマにした、ミニ演劇を上演いたします。劇団みえ（仮称）の迷演技と、皆様の周りにいる「こんなところにカウンセラー！」を感じてください。

ナビゲーター　中部支部　養成講座部　三重地区チーフ
中 川　真 理 子

第３分科会

継続テーマⅢ

新たな事業の取り組みについて

関西支部　副支部長
コーディネーター　中 嶋　啓 造

沖縄大会、北関東大会に続く継続テーマでの開催になります。

沖縄大会では、収入的な視点だけでなく、会員サービス、社会的役割、専門性の高い組織体としての「新事業」への展望へとつながりました。

北関東大会では、支部の先行的取り組みの紹介、研修の新しい試みが発表され、その後のグループ討議では、

・産業カウンセラーだからこそできる「新事業」とは～

・本当に望まれる「新事業」とは何なのか～

をテーマに、積極的な意見交換がなされ、グループ発表や、個別発表では参加者同士が多くの気づきや考えを共有することができました。また、産業カウンセラーの強みは「傾聴力」であり、その力をさらに向上させ、個人として、組織としての可能性や新たな事業に取り組むことの重要性が確認されました。

中部大会では、既に義務化されたストレスチェック制度、昨年4月から実施されたキャリアコンサルタントの国家資格化、更には今後予想される働き方改革に伴う法整備など働き方の多様性が求められるなか、産業カウンセラーの専門性を生かした、新たな事業の可能性について考察していきます。

社会の変化に対し、個人として、組織として、何が求められ、何をすべきなのか、各支部の先行事例や提案事項について意見交換し、情報を共有しながら、社会に貢献する産業カウンセラーの専門性を生かした、持続可能な新しい事業の取り組みについて議論を深めます。

ナビゲーター　中部支部　認定講師
秋 山　佳 寛

第４分科会

多様化する労働者のメンタルヘルス対策

東関東支部　研修講師
コーディネーター　高遠 康治

労働者は、本来、それぞれが多様であるものであり、今に至って初めて多様化しているわけではありません。しかしながら、今はその多様性に個別に目を向けたメンタルヘルス対策が求められてきています。これまでの「画一的な対策」から「個別の対策」に、この流れに第４分科会は焦点を当ててみます。

今、職場ではその多様化が増々広がり、存在感が増してきています。例えば、性別はこれまで当たり前のように男女の区別だけであったのが今やLGBTの認知が広まり新たな対応が求められています。非正規社員の割合が増加するばかりでなく、外国人の割合も増加し、言葉の障壁のみならず習慣、価値観の違いへの対応が求められています。また、がん患者への就労支援については協会本部がワークショップを昨年度開催しており、今後の私達の活動展開が期待されている分野です。少子高齢化に加えた晩婚化・晩産化によるダブルケアでの離職の増加、障害者雇用促進法の改正等による職場環境の変化にも目を向けるべきところです。激励禁忌と言われてきたうつ病への対応を180度近く転換しなければならない現代型とも言われる新たな不調者の増加等、これまでの画一的な対策が通じない、個別にメンタルヘルス対策をとらなければならない案件については枚挙にいとまがなくなっているのが現状です。

また、このような多様化により産業カウンセラーの守備範囲が格段に広がることで支援者としての負担が増し、更には、「現代型」への対応で我知れず陰性感情を抱いてしまうケースも少なからず現れてきているのではないでしょうか。そんな環境下で、私達自身が心身の健康を保っていくことも課題となっています。

第４分科会では、これらの労働者の多様性に対して個別にメンタルヘルス対策に取り組んでいる事例をご発表いただき、共有しながら、私達、産業カウンセラーが「多様化」に対応できる範囲を少しでも広げることのできる場にしたいと願っています。

ナビゲーター　中部支部　養成講座部　部長
松本 雅代

第５分科会

時代の変化に応えるキャリア開発支援を考える

北関東支部　キャリアコンサルタント講座部　副部長
コーディネーター　築島 孝浩

国は一億総活躍社会を掲げ政策を進めています。そのためにも一人ひとりの役割がやりがいにつながらなければ成果も見出せません。また、少子高齢化社会が進んでいく中で、日本の労働力人口は減少していくと考えられます。若年者、シニア、女性の活躍はもとより外国人の参入も、逆に海外で働く日本人もますます求められてきます。国の方向性を考えると、その中で働く人たちは今後、雇用の流動化の波に飲み込まれて行かざるを得ません。より満足のいく働き方を実現するためにも、制度やルールの改変が進められることになります。同時に、働く人の考え方も人によって異なってきているいま、その支援も多様性の上に立って進めることが必要です。

このような時代の流れの中で、キャリアの問題は単純なものではなく様々な組み合わせによって発生してきます。

産業カウンセラーやキャリアコンサルタントは、これからの時代に求められるキャリア開発支援は何かをいま一度考察し、将来を見据えた支援に繋げていくことが求められます。

時代の変化を見据え、発表者の事例から見えてくるものを共有し、産業カウンセラー、キャリアコンサルタントとしての今後の活動を理解する分科会とします。

ナビゲーター　中部支部　会員研修部　部長
水野 清治

第６分科会

ポジティブな人間関係開発
～働く人の人間的成長を目指して～

中部支部　事業推進部　事業運営グループ長
コーディネーター　柄谷　泰弘

2000年に厚生労働省による職場のメンタルヘルスに関する指針が公表されて以来、企業や団体では、様々な職場のメンタルヘルス対策が行われてきました。

しかし、これからの時代は、従来の不調者中心のネガティブな面だけではなく、組織のポジティブな面に注目し、職場や企業、ひいては社会そのものの変化に伴って、ベクトルを転換すべきことが求められています。

つまり組織側から働く人の人間的成長を支援し、組織における人間関係を良好なものにすることによって、働く人だけでなく、組織全体の活性化を援助することです。

そのためには、ポジティブな人間関係開発の実現を目指すことが重要です。

・一人ひとりが身体の健康のみならず、こころの健康を保ち、心身ともに健やかに働ける職場風土を築きあげる。

・一人ひとりが高い自由度と裁量権の中で、個性と才能を発揮し、組織の活性化に貢献できるモチベーションの高い職場環境を創り出していく。

・一人ひとりが尊重された職場の中で、業務課題への取り組みを通じて、達成感や成長感、存在意義などを体感し、やりがい、働きがい、生きがいが創出されることで、組織の生産性向上に寄与していく。

以上のことを踏まえ、組織のよりよい人間関係開発の構築に向け、産業カウンセラーとしての可能性とその具体的な取り組み方を明らかにし、皆様のご活躍の場で活かせるような分かち合いを行いたいと思います。沢山のご来場をお待ちしています。

ナビゲーター　中部支部　認定講師
野村　誓子